



雑行を棄てて本願に帰す



聖人がお生まれになり過ぎられた時代は、当に源平合戦の真っ只中でした。9才で得度を受けられた聖人が、その一年前に父親と生別し、4才で母親を亡くしたとい

昨年、赤羽別院のお待ち受け法要を兼ねた報恩講にお参りさせて頂きました。その折に創られました記念誌を見ておりましたところ、御門首の表白の言葉がございまして、その上に次の言葉が書いてございました。

雑行を棄てて本願に帰す

私達は、毎日平々凡々と生きていますが、心の中では「どう生きる事が人間なのか、何に遇うことが人間なのか」を常に模索しています。この一点を言い表わしているのがこの言葉だと思えます。

今年はお親鸞聖人の七五〇回忌の年でもあります。10年前から準備を始めて「宗祖としての親鸞聖人に遇う」を基本理念として歩みを進めた待ちに待った年です。何を待ちに待ったかというところ、この言葉に出遇うことだと思えます。

見て世の非常を悟るのです。それが自然のことなのです。大谷派の学生さん達は、入

七高僧です。その先生方の教えに出遇って人生に喜びを得られたのです。この喜びを報恩といえます。特に龍樹菩薩は「称名報恩」と言ひま

有無の見 普通なら、仏陀自身が説いた良いと思いませんが、お釈迦様でも説いた事があったの

愚痴 宗祖は、この易行の教えに自らの生き方を問い返し「愚かな禿」と名告られた。禿は

死すべき身 龍樹菩薩は、お釈迦様が亡くなられてから七百八百年経ってから生まれました。

私としての人生 宗祖は「ここに人間あり」と深くうなづかれたのです。

われであり、8歳で両親を失った訳です。そして、9歳で比叡山に上られた聖人は、20年間学び、修行し比叡山を降りたのです。20年間も居たを過ごしてもよいかと思えますが、聖人は形の上では立派になっても、心の中がきれいになれない自分が悩むのです。

回心 大谷派の学生さん達は、入

龍樹菩薩は、お釈迦様が亡くなられてから七百八百年経ってから生まれました。

死すべき身 龍樹菩薩は、お釈迦様が亡くなられてから七百八百年経ってから生まれました。

宗祖は、この易行の教えに自らの生き方を問い返し「愚かな禿」と名告られた。禿は

死すべき身 龍樹菩薩は、お釈迦様が亡くなられてから七百八百年経ってから生まれました。

私としての人生 宗祖は「ここに人間あり」と深くうなづかれたのです。

赤羽別院報 第30号
 発行所 大谷派 親宣寺
 赤羽別院 浅野 伶
 〒444-0427 愛知県西尾市一色町赤羽上郷中14
 Tel・Fax (0563) 72-2308

講師プロフィール
安藤 傳融師(あんどう でんゆう)
 1950年(昭和25年)愛知県に生まれる
 大谷大学卒業
 岡崎市 浄専寺住職
 元 岡崎教区第7組組長
 現 本山教導 衆議会議員
 法話をはじめ、真宗の教化活動で活躍中

別院行事のご案内

春季彼岸会 しゅんぎがんえ
 3月20日(火) 午後1時
 法話 第13組 安休寺 聖英 真人師
 3月21日(水) 午後1時
 法話 第8組 福正寺 本多 友明師
 3月22日(木) 午後1時
 法話 第14組 蓮成寺 青木 馨師

真宗講座 しんしゆこうざ
 3月27日(火) 午後2時
 テーマ 「正信偈に学ぶ」
 大谷大学名誉教授 古田 和弘師

報徳会 ほうとくえ
 4月11日(水) 午後1時
 法話 第18組 福万寺 戸松 憲仁師

教区公開講演会 きょうくわいこうげんかい
 5月17日(木) 午後2時
 講師 3・11後の歩み
 フクシマを福島へ
 講師 仙台教区浜組 明賢寺 藤村 淳心師

殉教記念法要 じゆんきょうきんねんぽうぎよ
 6月5日(火) 午後1時
 本山健役御参修
 法話 未定
 主催 殉教記念会

農朝法話 じんにしやうほつわ 午前7時
 4月13日(金) 第8組 安楽寺 伊奈 祐師師
 4月28日(土) 同 専念寺 羽田 賢洋師
 5月13日(日) 第9組 源徳寺 藤原 知貴師
 5月28日(月) 同 正明寺 大塚 正明師
 6月13日(水) 第10組 法園寺 石川 祐美子師
 6月28日(木) 同 永覚寺 野々山 隆音師

東西合同 宗祖七五〇回御遠忌のご案内
 場所 応仁寺(碧南市西端)
 期日 5月27日(日)
 午前9時 大谷法要
 午後11時30分 三河一派 絵解き座
 午後1時30分 本願寺派法要
 法話 法話集団 迦陵頻伽
 第11組と本願寺派海幡組(西三河南部地域)の若手僧侶を中心に東西の枠を超えてお勤めし、屋台・お茶席も用意! 是非お参り下さい。

交流研修会 難波別院を訪問

全国の多くの別院で、各々の別院の特色を生かした機関紙・誌が発行されています。このたび、別院報「南御堂」を発行する大阪・難波別院と新聞編集を中心とした担当者との交流研修会が実現し、当別院の輪番・教化センター主幹・広報部から編集長以下5名の7名が2月21日・22日難波別院へ赴きました。

南御堂と呼ばれる難波別院は、江戸時代初期の本願寺東西分派の折、東本願寺建立前の一時期、本願寺が置かれた場所でもあり、本山を前身とする由緒ある別院であります。境内には現在も「大谷本願寺」の銘の入った当時の梵鐘が保存されています。

また、数百米北には西本願寺・津村別院(北御堂)があることから、沿道を御堂筋と呼び広く知られています。

難波別院は、全国52別院の中でも有数の大規模別院であり、別院報「南御堂」は、複数の常勤担当者の編集による月刊・12頁で構成されており、当別院のそれとは比べようもないものであります。

交流研修会では、この編集に携っておみえになる墨林部長から新聞編集の基礎知識などについて解説があり、この



墨林部長の話を伺う

他にもパソコンソフトを使って、低コストで別院案内を製作する手法など、広報活動全般に対する取組みについてお話をいただきました。

難波別院は現在、来年4月にお勧めする宗祖聖人七五〇回御遠忌に向けて、本堂内陣の大修復工事中でしたが、その現場や多岐にわたる施設の見学をさせていただきました。

同別院は、大都市中心部の二丁目に応えて、コンサート・映画試写会や演劇などの催しに対応できる大ホールをはじめ、展示室・会議室や研修室などが多数完備され、驚嘆の極みでありました。

二日目は、大阪城本丸の地にあった石山(大阪)本願寺を訪ね、これを顕証する「南無阿弥陀仏」の大きな六字名号碑にお参りしました。

古くより、宗門は本山・別院・一般寺院といった、縦のつながりを中心に運営されてきたことから、地域(教区)を越えた交流が少ない中で、横のつながりを持たない交流研修会は、大変有意義で実り多いものであります。

この度の交流研修で五辻輪番をはじめ、関係者から賜った格別のご配慮に対し厚くお礼を申し上げる次第です。

(平野記)



石山(大阪)本願寺跡名号碑

古田和弘師 真宗講座開催



満堂の聴聞者

厳寒の1月24日、第1回真宗講座が開催され、約80名のご門徒が熱心に聴聞された。この講座は、これまで「数異抄」・「御文」・「和讃」などお聖教に学ぶ会として継続されておられ、今年は大谷大学名誉教授・古田和弘師を講師にお迎えしお話しいただいた。

師は「正信偈は真宗門徒にとつて最も身近かなお聖教であり、全国津々浦々、毎日毎日お勧めされていますが、その意味について考えることは少ないのではないかと。意味を知ることは宗祖のお心に触れることでもある」と指摘され

正信偈の概要・構成を中心に資料を示して話された。正信偈・念仏・和讃が現在のように、日々の修行に用いられるようになったのは、蓮如上人の時代からだと言われている。師は「恐らく蓮如上人は、親鸞聖人の教行信証を何度も読み、宗祖の示された真実の教び・感動を多くの人達に味わつて欲しいとの願いから同行たちと一緒にこの偈を唱和されるようになったのではないかと」と述べられた。

人は、とすれば念仏を呪文のように捉え、情性で称えたりしていることがある。念仏申すとは、何を振り処として生きていられるかを確かめ、求めずにはいられない。出遇わすにはいられない自分を知ることであると改めて問い返された。

師の誠実なお人柄のなかに、ユーモアとジョークを交えた丁寧な語り口が印象的であり、次回以降も是非謙虚に耳を傾け拝聴したい講座である。

昨年11月23日、笑う介護士・袖山卓也氏をお招きして開催した講演会では「高齢者問題対策・苦しい中にも笑いのある介護」をテーマでお話しいただきました。

お寺の行事では減少にみられない60名を超す若年層女性を中心とした聴講者を前にして、軽快なテンポで語りかけるが如き講話で、その要旨を次に記します。即ち、

介護士をしていますと、当り前といわれている事がどれ程大切かということが見えてきます。かつては、感謝とはお礼がどうという気持ちであると思っていました。これは勤

笑う介護士講演会

世の中に対し腹が立つという事がなくなり。介護をしていくときのイライラは、自分はこの間に頑張っているのにと思っている人を見て、自分にできることを見ると、介護という世界にいますと、毎日対面する方々が私よりしんどい状況におられる訳で、自分が辛いとか疲れたとかは思いもしない事で、自分の幸せに気づくだけです。

高齢化・少子家族化などにより、人の絆が稀薄になっていく現代社会において、自分自身の今を気づかせられたいく事の中に「苦しい中にも笑顔」が見つけれられるのではないかと思った次第です。

くらし副部長 伴 仁志



熱弁を奮う袖山氏

双全講・修正会を厳修

長期に亘る経済不況・政治の混乱のなかでの地震と台風による自然災害が続いた。その中で「四」だけは独歩高を辿った平成23年は、穏やかな大晦日に響きたる別院の梵鐘の音とともに幕を閉じた。厳かな初鐘により明けたる新年は、飛躍の辰年とならんことを切に願うものである。

お元日の午前7時からはお御堂においで修正会が厳修された。

和讃は初鐘の「弥陀成仏のこのかたは」に、お文は「一帖目第一通」に戻るのが修正会である。初日の出とともに営まれる修行は、真に心が洗われる思いである。(石川記)

年中行事である双全講が1月15日厳修された。双全講は、別院の列座が地域の門徒宅に御引上でお参りし、最後にお懇仏の会所として、赤羽別院でお勧めと併せて追平会を営む法座である。このように二つの法要をお勧めすることにより、「真宗の法義相続」と「赤羽別院護持」の「双」の事を永く全うすることを確認する法座であり、講名「双全講」は別院た

けに存在するものである。大変残念ながら、年々お参りの方が少なくなっており、法話講師の三浦真教師は途中から壇上から下座し、車座となるフリー・トークの座談会となったが、ご門徒さんから貴重なご意見を伺うことができた法座となった。今後地域の方々と共に、今後も地域の方々と共に、調し、未永く継続されることを切に望まれます。(本多記)

輪番の年頭辞と法話を聴聞した後、席を庫裡に移してふるまわれたお節料理の味は格別であり、皆が笑顔で新年の挨拶を交す自出たい法会が修正会である。(石川記)



三姉妹による初鐘

新年行事懇談会

昨年12月13日、新旧の年行事を別院にお招きして懇談会が開催され、浅野輪番より任務を終えられた方々に対する丁寧な謝辞と、新任の年行事さんにお願いの挨拶がありました。

年行事さんには、報恩講を始めとして年間4回の法座開催の際に、お斎の仕度をしていただいております。

懇談会では、旧年行事さんが「就任当初の戸惑いから、次第にお斎料理が美味しくできる楽しさを感じるようになり、結構楽しくお勧めすることができました」と話され、新旧ご一同の方々が笑顔で頷いておられました。

- 花祭り**
—スタンプリ—
- 一色町のお寺へ行って地図をもらい、5つ以上のお寺にお参りして満園寺へ行くこと。賞状とお菓子がもらえます。
 - ・日にち 3月31日(土)
 - ・じかん 午後1時~4時
 - ・ゴール 満園寺(味浜)
- 詳しいお尋ねください。
- のお寺にお尋ねください。
- ・協力寺院(順不同)
 - ・赤羽別院
 - ・普元寺
 - ・養林寺
 - ・開泉寺
 - ・安休寺
 - ・崇用寺
 - ・満園寺
 - ・長宣寺
 - ・憶念寺
 - ・良久院
 - ・教栄寺
 - ・隆勝寺
 - ・明栄寺
 - ・慶徳寺
 - ・長寿寺
 - ・光粒寺

第11組 報恩講

去る2月3・5日の3日間第11組・本遊寺では宗祖親鸞聖人七〇回御正當報恩講が厳修された。

報恩講に昔の賑わいを取り戻そうという住職の熱い願いから、地元をはじめとした大勢の方々の協力を得て、ポスターの掲示や3万部のカラー印刷のチラシを新聞に折り込むなど、閉塞感のある仏事の現状打破に真剣な取組がなされていた。

当日は、境内に屋台が出店し、お昼には本膳でお齋が振舞われるなど、昔ながらの「ほんこん」の情緒が醸し出されていた。

三日間を通じておつとめの後は、住職が座長を勤める三河すーぱー絵解き座の10名が登場し、全12席の



石川師の法話

去る2月3・5日の3日間第11組・本遊寺では宗祖親鸞聖人七〇回御正當報恩講が厳修された。

報恩講に昔の賑わいを取り戻そうという住職の熱い願いから、地元をはじめとした大勢の方々の協力を得て、ポスターの掲示や3万部のカラー印刷のチラシを新聞に折り込むなど、閉塞感のある仏事の現状打破に真剣な取組がなされていた。

当日は、境内に屋台が出店し、お昼には本膳でお齋が振舞われるなど、昔ながらの「ほんこん」の情緒が醸し出されていた。

三日間を通じておつとめの後は、住職が座長を勤める三河すーぱー絵解き座の10名が登場し、全12席の



櫻部住職の法話

本願寺三代覚如上人は、親鸞聖人を讃嘆するため「報恩講私記」を記されました。

以来「報恩講は、私たち真宗門徒が最も大切とする宗祖への報恩謝徳の行事として寺院はもとより、各村・各家に於いても勤められています。「お取越」「ご引上」などの呼び名の方がみなさん馴染み深いかも知れません。

去る12月20日、吉良町高島地区において、正覚寺同行の

第9組 今も続くお惣佛事

「お惣仏」が勤められました。「お惣仏」とは村の報恩講で惣佛事を意味します。

この日、各家々々の報恩講を勤め終えた高島地区の同行六十数名ご一同は、地区集落センターに会し、センター内に安置された御内仏の前で、住職・櫻部明師を導師に正信偈念仏和讃を唱和しました。勤行の後には法話があり、その中で師は「宗教」という言葉の成り立ちについて「宗」「棟」「胸」といった「ムネ」と発音する言葉の語源には「中心」という意味がある事に触れられ、教えを生活の「宗」とする事の大切さを解かれました。

近年の社会変化に伴い簡略化して勤められる事も多くなったこれらの行事ですが、古くからの宗風が生きたる貴重な法縁の場に出遇わせていただきました。

(平野記)

子供報恩講・三話

生活の中にお念仏の音が聞えなくなり、寺との距離が遠くなっている今日、大勢の子供がお寺に集まり、大きな声で「南無阿彌陀仏」を称える姿が見受けられます。お勤めされた三つの子供報恩講の様子をお伝えします。

第13組 小豆もが御文拝読

55年も前からお寺と小学校の子ども会がタイアップし「青葉子ども会」として活動している第13組良宣寺では、去る11月12日子ども報恩講が盛會裡に勤まりました。

この催しには、大人にも子供の時に参加してお世話になったという思いがあり、暖かく見守り率先してお手伝いをされていた。

この日は60名を超す子どもで満堂となり、お勤めでは祖父母・親を交えて三代にわたるお念仏の声を響かすことに見ることができた。

お念仏を大切にしながら、次世代にしっかりと伝えてきた地域の方々や良宣寺に頭が下がる思いであった。

(浅野真記)

法要は、小学校一年生以下による供灯・供華に始まり、全員による誓いの言葉に続くお勤めの後には、六年生三人のリレーによる御文拝読が続いた。上級生がリーダーとなって、全て子ども中心で皆の楽しそうな姿が印象的であった。

御文拝読

去る2月3・5日の3日間第11組・本遊寺では宗祖親鸞聖人七〇回御正當報恩講が厳修された。

報恩講に昔の賑わいを取り戻そうという住職の熱い願いから、地元をはじめとした大勢の方々の協力を得て、ポスターの掲示や3万部のカラー印刷のチラシを新聞に折り込むなど、閉塞感のある仏事の現状打破に真剣な取組がなされていた。

当日は、境内に屋台が出店し、お昼には本膳でお齋が振舞われるなど、昔ながらの「ほんこん」の情緒が醸し出されていた。

三日間を通じておつとめの後は、住職が座長を勤める三河すーぱー絵解き座の10名が登場し、全12席の

去る2月3・5日の3日間第11組・本遊寺では宗祖親鸞聖人七〇回御正當報恩講が厳修された。

報恩講に昔の賑わいを取り戻そうという住職の熱い願いから、地元をはじめとした大勢の方々の協力を得て、ポスターの掲示や3万部のカラー印刷のチラシを新聞に折り込むなど、閉塞感のある仏事の現状打破に真剣な取組がなされていた。

当日は、境内に屋台が出店し、お昼には本膳でお齋が振舞われるなど、昔ながらの「ほんこん」の情緒が醸し出されていた。

三日間を通じておつとめの後は、住職が座長を勤める三河すーぱー絵解き座の10名が登場し、全12席の

御坊俳壇

この後、各種のゲーム等を楽しみながら住職と親しくふれ合う子供たちの様に明るい表情が印象的でした。

ともすれば、寺院との間に距離を置く人が増えている世相のなかで、教えを身近なものとして親しむ場が受け継がれていくことの尊さを感じる法会でありました。

(櫻部記)

金子あきま
大塚 房江
神原さちよ
辻村 勲代
服部 芳子
名倉みさを
稲垣ヤヨイ
北條美菜栄
浜島 君江
乙部 妙子

この後、各種のゲーム等を楽しみながら住職と親しくふれ合う子供たちの様に明るい表情が印象的でした。

ともすれば、寺院との間に距離を置く人が増えている世相のなかで、教えを身近なものとして親しむ場が受け継がれていくことの尊さを感じる法会でありました。

(櫻部記)

熱心にお勤め

たっちゃんの紙芝居

第14組 子供が調声

第14組では坊守を中心とした児童教化部門を設け、積極的に教化活動に務めており、去る12月22日専興寺において「子ども報恩講」がお勤めされた。

児童60余名が参加し、専興寺住職の孫・浅野心君の調声で力強く正信偈がお勤めされた。

教化委員長の挨拶では、お念仏の意味が語られ、お楽しみ会にとどまらず「教化を目的とした法要」としての位置づけがなされた。

お勤めの後のお楽しみでは、ゲームに続いて名古屋のマーガレット一家の「たっちゃん紙芝居」により、ブクの腕前で子ども達を笑いの渦に巻きこんだ。庫裏では、組の坊守・手伝いの方々により数百個ものたっちゃんが仕度されたが、あつという間に子ども達の胃袋に消えていった。

教化部の事業には何時も参加下さる方もあり、継続の大切さを痛感した。今後は、花まつりやおつとめ練習会が予定されている。

(櫻部記)

永遠の心を刻む石造り
みどりストーン
優良墓石専門店

碧南市池下町4丁目18番
TEL:0566-46-4114
FAX:0566-46-4115

社寺建築の伝統と最新耐震技術の調和を目指す
弘
株式会社 魚津社寺工務店

名古屋市中川区西日置二丁目12番20号 TEL:052-331-3080
http://www.uotushaji.co.jp FAX:052-332-3540

写真:本堂修復・耐震補強 工事前後の事例(背面)

仏壇・神具・墓石・製造販売修理
創業 明治20年
佛光

碧南市源氏町 一丁目45-1番地
休日/火曜日
TEL:0566-41-2044

蓮如上人と大浜騒動縁りの 碧南市池端・蓮成寺を訪ねる (No.1)

五〇〇余年の昔、都を追われた蓮如上人が近江を経て、三河の地へ下向されたことが端緒となつて、碧南市驚塚地区は真宗門徒が築きあげた寺内町として栄えた。その中心となつた蓮如上人縁りのお寺で、後の世に大浜騒動の舞台ともなり、幾多の苦難の歴史を乗り越えてきた蓮成寺を尋ね、住職・青木醫師から話を伺った。

蓮成寺の草創

今を去る五百四十五年、驚塚郷に郷土・大木(青木)縫右衛門尉なるお方があつて、尾州成岩(半田市)無量壽寺門徒でありました。時に寛正五年(一四六四)無量壽寺住職・上人をお守り申し上げ、上人は宗相のご真影と共に近江へ逃げのうちに睡間し決定され、逃られたのであります。



蓮成寺本堂

その後、本證寺(安城市)・上宮寺(三河の坊主衆らの願いもあつて、応仁二年(一四六八)蓮如上人は三河へ下向され、縫右衛門は昼夜丁重にお給仕申し上げると共に、直上人より念仏の道を聞いて、歡喜の涙にむせいだのであります。

縫右衛門に釈蓮成と法名を下されました。さらに、蓮成の願いにより蓮如上人は驚塚へおいでになり、一字の道場の建立へと導かれました。この時、上人は六字名号と正信偈の文を書き下され、形見となり、成岩無量壽寺の掛け所(本寺の出先寺院)として出発したのであります。また、現在も蓮成寺の南東二百米の所に「蓮如上人足洗いの池」と称する跡地の碑があり、往古より上人との深い関わりがあつたことを物語っています。事実、今もお内仏に蓮如上人筆といわれる六字名号が安置されるお同行が数軒あり、法義相統の尊さが感ぜられます。



本山前に到着

蓮成寺の草創をお尋ねする時、その由緒や法宝物を裏付ける先人のご苦勞と願いにふれさせて頂きました。(稲垣記)

昨年11月24日午前6時半、満車のバス2台が室場を出発して、第8組の本山報恩講の団体参拝は始まりました。本山前に到着したバスを降り山門を潜ると、既に境内は参拝者がうめきた返す賑わいをみせ、御影堂においては堂内での参拝が叶わず、緑で立ったままお参りされる方が大勢おみえになりました。私たち一行は、どうか御影堂内に席を確保できましたが、阿弥陀堂に近い柱の周りで、お内陣を伺うこともままなりません。それでも正信偈の声明では、ここぞとばかり大きな声でお勤めし、御影堂内は厳かな声が響きわたり、正に心が洗われる如き思いでありました。

本山から参拝記念にいただいた花びらと瓦の拓本を手に帰路につき、途中、蓮如上人と縁りの深い一休さんの寺・酬恩庵にお参りをして昼食を満喫することができました。昨年は、折しも親鸞聖人七五〇回御正當の年の報恩講であり、法縁に巡り遇えた喜びとお参りができた満足感に浸ることができた団体参拝となりました。(本多記)

本山報恩講にお参りして

9 人間模様

お寺とのか縁は何だったのですか。小学生の頃、お年忌とか月参りでお寺さんの読むお経が、不思議なほど心に残り、不思議なほど心に残り、偶然にもお経の意識本に出逢い興味を湧き、耳でお経を聞き目で意識を追つてくるうちに、お経が好きになりました。



西方寺本堂前で高松さん

成人した頃、新興宗教に関心を持ち、その教義を学ぼうという思いを西方寺の前坊守さんに相談したところ、「そういう思いになる人は多いが、最後は皆、必ず阿弥陀様に戻ってくるんだ」とお寺とのか縁は何だったのですか。小学生の頃、お年忌とか月参りでお寺さんの読むお経が、不思議なほど心に残り、偶然にもお経の意識本に出逢い興味を湧き、耳でお経を聞き目で意識を追つてくるうちに、お経が好きになりました。

はじめの頃はお寺の法座にお参りに行つても、お経だけ聞いて退座することが多かったのですが、三年前に帰敬式を受けてからは、積極的に法話を聞かせて戴くようになりました。その頃から、家族・家庭に対する考え方が変わってき、それまで一切手出ししなかつた家事を手伝うようになり、子供と一緒に遊ぶようになり、お勤めを心に残らなうな「声明」ができるようになった。それがいつか仏法のご縁につながつていったらいいです。それが僕の夢です。

今、心に思うことは、自分は今何ができるのかということや生活の中でおこる様々な問題を仏様に尋ね、お寺で学んでいこうと思つています。そのために、お寺の法話や仏法にご縁のある場所に行ける限

早期復興祈願がんばろう日本!

◆仏事Q&A◆

◆私の家のお内仏には鶴亀(運台)が二つあります。普段はどのようにお荘厳すればよいのでしょうか?

◆お内仏の鶴亀には、口を開いたものと口を閉じたものがあります。普段は口を開いた鶴亀をお荘厳して下さい。写真のように、お内仏の前卓の上に向つて右から、鶴亀・土香炉・花瓶の順に並べます。必ず、鶴亀の嘴が内側を向くようにします。

◆このときの蓮軸は、蓮の実が正面(蓮の葉が外側・蕾が内側)を向くようにします。時折、鶴亀を正面に向けて置いてあるのを見かけますが、



正しいお荘厳

赤羽御坊新聞懇志(敬称略)

- ・ 正向寺
- ・ 巖西寺同朋の会
- ・ 巖西寺同行中

御懇志を貴重なき懇志を、ありがとうございました

お寺の掲示板

その人を憶いて
われは生き
その人を忘れて
われは迷う

第11組 本後寺

赤羽地域教化センターウェブ

http://www.katch.ne.jp/~akabane_betuin/

仏事で困ったら...

携帯からのアクセスはQRコードから
お寺の法語掲示板をみてみよう

編 集 室

崇敬区内ご住職にお願い

「赤羽御坊」は、赤羽別院や各寺院の出来事をはじめ各種の情報を、ご門徒さん・岡崎教区崇敬寺院や全国の別院等に宛てて発信する唯一の広報手段であります。

ご門徒さんへの配付方法は、各組を通じて各々のお手次の寺院にお願いしているところであり、

教化センターが発足してこの方4年を経過し、15回の新聞を発行して参りましたが、新聞に対する崇敬寺院に温度差がみられる実情から、未だに、新聞に目を通したことがないばかりか、その存在すらご存知ないご門徒さんもおみえになります。

真宗門徒の仏法信心の糧ともなる「赤羽御坊」伝達の一層のご理解と協力を賜わりたくお願い申し上げます。